

むち、むちうつ、たゞ

鞣 アイ 鞣 カイ

くつ、履物の一種

鞣 ベツ 鞣

たび、くつ下、くつたび

韋部

韋 キ 韋 韋 韋

なめしがはなめし皮の如く柔きもの

八一〇畫

韓 カン 韓 韓

①みげた(井桓)②國の名(戰國時代諸侯の一にして今の河南省の中部及山西省澤潞地方を治め後秦に滅されしもの)③もと朝鮮南部の土地

鞬 セフ 鞬

引を射るとき手の指にはめる革の袋、ゆがけ

鞞 タウ 鞞 鞞

①ふくろ、武器を包む鞞②つゝむ③兵法の秘訣

鞞 ハイ 鞞

①ふいがう、ふいご②たゞら

鞞 ウン 鞞

つゝみかくす、をさむ

韭部

韭 キウ 韭

①草の名、にら②鹿韭は牡丹

四 畫

韭 韭に同じ 韭 韭

音部

音 イン 音 音 音

非部 韭・韭 音部 音・韻・韻・韻

①おと、こゑ(聲)②おんきよく、おんがく③調の對、文字のよみこゑ④おとづれ(音信)⑤ことば(言語)⑥かげ(蔭)

四一三畫

韻 韻に同じ 韻

韶 セウ 韶 韶

①帝舜の作りし音樂②うつくし(美)うらゝか

韻 キン 韻 韻 韻

①こゑ(聲)ひびき、てうし(調子)②漢字を其發音の類似により一六六に分類したる區別の稱③風流なるおもむき④詩歌文墨に關する事柄

響 キヤウ 響 響 響

# 頁部

① ひびき、物の振動する音、又ひびく② きこえ、うはき

頁

ケツ

頁

頁

③ からべ(頊)かしら④ 書物の全紙面、又其を敷へる語、ページ⑤ 國訓おほがひ(漢字書上の語、大貝)

## 二 畫

頊

テイ

頊

頊

① いたゞき(頊)てつべん、物の最も高き所② いたゞく(戴)上に置く③ 國訓うける(もらふ、賜はる)

頊

ケイ キヤウ

頊

① しばらく(少時)② 面積百畝の稱、頃之は「しばらくあつて」或は「しばらくにして」等と訓ず③ このごろ、ころ、比時④ そばだつ、かたむく(傾)⑤ かたあし(跬)

## 三 畫

頊

カウ

頊

頊

頊

① くびすぢの後部、うなじ② 物事のこわけ、箇條③ おほいなり(大)④ 分數の分子と分母、又級數の各數、代數式にては多項式を組成する各單式のこと

順

ジエン

順

順

① したがふ(從)さからはぬ、道理にそふ、次第秩序を保つ、又それ等のこと② おとなし、柔順である③ よこぶ、やすんじ樂しむ④ ついで、次第

頊

シニ

頊

頊

頊

① ひげ(鬚)② まつ(待)③ とゞまる、ひかへる(控)④ 必要を感じる⑤ 決定の詞「すべからく何々すべし」と返り讀む⑥ しばし、しばらく

## 四 畫

頊

キヨク

頊

① 自失するさま、又つゝしむ貌② 人名(上古の帝王高陽氏の號)

頊

シヨウ

頊

頊

頊

① たゞふ、ほむ② ほめことば、又人の善行等をほめて作りし詩文③ 詩經の詩の一體にして盛徳をほめ歌ひ神に告げるもの④ かたち(容)

頊

キ

頊

頊

① すらりとして品よき貌② 悲しみいたむ貌

頁部 頊・頊・頊・頊・頊

頊

カウ

頊

① くだる、鳥が舞ひ下る② のんど(吭)のど

頊

ヨ

頊

頊

頊

① あらかじめ(豫)たのしむ② あづかる(與)③ 國訓あづく(金品を一時他に託して保管させること)あづかる(金品を託せられて保管すること、かたじけなうする)

頊

グワン

頊

頊

フン

頊

頊

頊

① 魚の首の大なるさま② わかつ(分)しきり分つ、上より下に物品を分與すること、法律命令などをわかち布く③ まだら(斑)

七五七

頓 トン ドン  
トツ 頓 頓 頓

①ぬかづく、おじぎする(止)とむ(やぶる(敗)②くじける(挫)つまづく(おそ)そばだつ(時)たむろ、やどり、宿舎(と)とのふ(整)③とみに、にはかに(た)び(次)④にぶし(鈍)⑤冒頓は匈奴の王名

五 畫

頤 ハ 頤 頤 頤

①かたよる、不公平(す)こぶる、よほど、かなり

頤 レ イ  
リヤウ 頤 頤 頤

①うなじ、くび(え)り、衣服のくびすぢに當る所、かんじん、大切なる所(衣服甲冑などの一そろひ)②しむ(占)すべる、をさめる(治)③うく(受)うけとる(さ)とる(悟)

頤 ケツ  
カツ 頤 頤 頤

①あがる、鳥がまひあがる(か)すむ、盗みとる

六 畫

頤 イ 頤 頤 頤

①したあご、おとがひ(や)しなふ(養)②髡頤はおびた(しい)こと③易の卦の名

頤 フ ベン  
テウ 頤 頤

①俯に同じ(み)る、家老が君命にて他國を訪問すること、又大夫が天子に謁見すること

七 畫

頭 ツ  
頭 頭 頭 頭

①からべ、かしら、あたま、多人數の(い)いた(き)②最もすぐれたる階級(こ)ごち、はじめ(物)のはし(あたり、ほとり)③牛馬の數を數へる語(人)の、あたまか④國訓かみ(寮)の長官

頤 ケフ 頤 頤 頤

ほ、つら

頤 頤に  
同じ 頤 頤 頤

頤 カン  
ガン 頤 頤 頤

①あぎと、あご、おとがひ(う)なづく、點頭

頤 ケイ 頤 頤 頤

頁部 頤・頤・頤・頤・頤・頤

くびすぢ、くび、くびすぢに似たる所

頤 タイ 頤 頤 頤

①くづる、崩壞、衰へる(暴)風、はやて(した)がふ(貌)②倒れる貌

頤 ヒン  
ビン 頤 頤 頤

①しきり、たび、しきりに、急である(ほとり)②(ひそむ)頤をしかめる

八一九 畫

頤 クワ 頤 頤 頤

①つぶ、圓き物、又其を數へる語(つ)ちくれ、土地

頤 サイ 頤 頤 頤

あご、おとがひ、あぎと、又魚のえら

題

タイ  
ダイ

類 類 題 題

①ひたひ(額)②横の切り口③みだし、標題④或物事に  
つき意を述べし詩歌文章の類⑤とひ(試問)⑥しなさだ  
め(品評)⑦書きつける、しるす⑧みる(視)⑨上奏文の  
一種(明代に官吏が公事に關して奉りしもの、私事のも  
のを奏といふ)⑩兜の前に立てるかざり

類

ガク

類 類 類 類

①ひたひ(類)眉の上部②たか、定めた分量③門上又  
座敷などに掲げたる札④額銀又額判(金一步に當る古  
銀貨の名)⑤紫陽花の一種、よくあぢさゐ

類

ガク

類 類 類 類

①面の高き貌②あご

類

ガン

類 類 類 類

①かほ、頭の前面、つら、おもて②かんばせ、つらが  
まえ、かほいろ、又面目③がく、扁額、又扁額をか  
ける④人の姓(孔子の高弟)

類

セン

類

①もつばら(專)②額項は古代帝王の名③こまかしい

一〇畫

類

グワン

類 類 類 類

①ねがひ、のぞみ、神佛にたのみ祈る、官府又は長上  
にたのみ、又其たのみ②ねがふ、のぞむ、欲す、ねだ  
る、うらやむ(羨)③なにとぞ、ねがはくは④ごとに(毎)  
つねに、そのたんに

類

サウ

類 類 類 類

ひたひ(類)

顛

テン

類 類 類 類

①倒れる、くつがへる、ひつくりかへる、又度を失ひ  
て狼狽す②くつがへす、たふす③あたま、いたゞき(頂)  
てつべん④もと、ねもと⑤さきちがひ(顛)⑥もつばら(專)  
⑦うれふ(憂)⑧愚かなる貌⑨みつ(滿)ふさがる、ふさ  
ぐ

類

ルキ  
ライ

類 類 類 類

①なかま、たぐひ、ともがら②わかち、品わけ③たぐ  
ひす、たぐふ、にる(似)似よつた種別に從ひて物事を  
分ける④よし(善)⑤天帝を祀る、又軍隊のまつり⑥お  
ほむね(大略)⑦かたよる、不公平

一一一八畫

類

コ

類

①かへりみる、みかへる、みまはす、心にかける、目  
をかけいつくしむ、反省する、たづねる(訪問)後方に  
氣をとられる②かへつて(反)③おもふに(惟)④やとふ  
(雇)

類

セン

類

ふるふ、わなゝく

類

ケン  
ゲン

類 類 類 類

①あきらか(明)いちじるし(著)あらは、むきだし、お  
もてむき②あきらかにす、あらはす③あらはる、露見、  
暴露す④あらはに、外部のみ⑤身分尊き者⑥子孫が其  
亡父母に對する敬語

類

セフ  
セツ

類 類

類類はこめかみ

颯 ケン ギン  
クワン

おほほね、颯骨

颯

風部

風 フウ

風

①かぜ、かぜが吹く、風にあたる、かぜに吹かれる  
すゝむ、又風の如くはやい(勢)をし(教)しきたり、  
ならはし、習慣(い)きほひ(勢)威光(勢)やうす、容姿(勢)  
けしき、風景、風致(うた(歌謠))病氣の名、中風、か  
ぜ(感冒)きちがひ(狂疾)はなる(離)ほのめかす、  
あてこする(颯)又其ことば

三一五畫

嵐 國字

嵐

おろし、吹きおろす風

颯 サフ サツ  
ソク

颯

①風の吹く音(衰へる貌)盛んなる貌

颯 タイ

颯

②南支那海に、熱帯の暴風(颯)颯風より静かにして小  
低気圧の集まり(颯)を起す時に起る風

七一三畫

颯 グク

颯

①はげしき暴風、つむじ、つむじかぜ(氣象學上最大なる風)

颯 シ

颯

すゝかぜ、涼風

颯 ヤウ

颯

②あがる、あぐ、吹きあがる、風に吹かれ揚る、飛びあがる(颯)箕にてあふる、聲を張りあぐ(颯)顯はれる、ひきたつ

颯 ヘウ

颯

颯

③つむじかぜ、つむじ、又はやて(風)に吹かれて動く、ひるがへる、たよふ(漂)さまよふ(ひる)がへす、ただよはす、又それ等のさま(おつ)落

颯 ヘウ

颯

颯

風部 颯・颯・颯・颯 飛部 飛・颯

颯に同じ、つむじかぜ、大風

飛部

飛 ヒ

飛

①とぶ、かける(翔)あがる(揚)動き行く(越)こえる(越)はねる(跳)落ちる、散る(疾)疾くゆく、早く傳はる(と)ばす、又飛ぶもの、鳥類(高きこと)國訓(とぶ)をどりまたぐ、順序を経ずして進む、とびこえる

颯 ハン  
ホン

颯

颯

ひるがへす(翻)ひるがへる

# 食部

食

シヨク イ

食 食 食

①たべもの、くひもの口くふ、くらふ②ふち、秩祿③くらし、生活④かむ、かじる、のむ(飲)食事をする⑤はむ、俸祿をうける⑥なす(爲)⑦まどはす(窓)⑧古く蝕に通ず、日月の蝕すること⑨めし(飯)いひ(や)しなふ(養)そだてる(育)かふ(飼)⑩くはせる、くらはす⑪人名(漢高祖を説いた策士)

二 畫

飢

キ

飢 飢 飢

①のむ、ふくむ、こらへる、かくす、又それ等のこと②のみもの(飲料)③のます、ふくます④牛馬に水をのます、みづかふ

飯

ハン

飯 飯 飯

①めし、ごはん②くらふ、たべる、食事③やしなふ(養)かふ(飼)④くらはす、めしをくらはしめる

飧

ソン

飧

①ゆふげ、晩めし②飯に飲料をかけること、又そのもの

五 畫

飴

シイ

飴

飴 飴

①食品の一、あめ②やしなふ(養)くらはす

飼

シ

飼

飼 飼

やしなふ(養)かふ(飼)

食部 飯・飧・飴・飼・飽・飾・餼

①うゝ、かつゑる、空腹になる、食物に乏しい、五穀がみのらぬ②うやす、かつゑしめる

四 畫

飽

トン

飽 飽 飽

①は蒸したる餅②饅飽はめんもの一種、うどん

饌

オヨ

饌 饌

あく(饜)あきたる

飭

チヨク

飭

①いましむ(教)②とゝのふ(整)③たゞす(正)つゝしむ(謹)

飲

イン

飲 飲 飲

飽

ハウ

飽 飽 飽

①あく、あきたる、満腹する、ゆたかである②あくまで、満足するほど

飾

シヨク

飾 飾 飾

①かざる、外部をつくるふ、しあげる②かざり、かざり物、かざりを施す③衣服のへり④おほふ(覆)をさむ(修)⑤國訓かざり(新年に門戸に取り附けるえんぎもの、美観をそへる爲に取りつけるもの)

六 畫

餼

シヤウ

餼 餼 餼

①かれないひ、おくる食物、べんたうの類②かれないひす(餼)飯その他の食品を送りあてがふ③兵糧、又軍用金④食事する間、短き時間

養 ヤウ 善善善善

①やしなふ(音)そだてあげる、つくり成す、生活させる、保全す、かふ(飼)又それ等のこと②炊事方、まかない係③うれへる(憂)④官位低き者が高き官位の者をやしなふ

餌 ジ 餌 餌

①たべもの②だんご、こどももち③くらふ(食)主として薬として食ふこと、又其物④そば、そば、そば、又利益を以て人を誘ひよせること

七 畫

餐 サン 餐 餐 餐

①くふ、くらふ、又そのこと、その物②間食、あひぐひ③俗に糞と混用す

八 畫

饗 飾に 饗 饗

饗 セン 饗 饗

①はなむけ、みおくり、送別會、又其進物②みおくる、おくる、はなむけ

餒 テツ 餒 餒

神位順に並べて數多の鬼神を祭ること

餅 ヘイ 餅 餅 餅

①もち、だんご②物のひとときれ③國訓もち(糯米を蒸して搗きたる食品、すべて穀類にて製したるだんご)

餒 ダイ 餒 餒

①うゑる(餓)かつゑる、又うゑさせる②あざれる、魚肉がくさる

餓 ガ 餓 餓 餓

③うゑる(飢)かつゑる、うゑさせる④うゑ、餓餓

餽 ホ 餽 餽

⑤ばんめし、ゆふめし⑥くふ、たべる⑦くらはず

餹 ソク 餹 餹

鼎の中に盛つた食物、職務を十分につとめ得ぬ貌

餘 ヨ 餘 餘 餘

①あまり、のこり、よぶん、他事、はした②大略を擧げて餘分を省く時に添へる語③のち、あと、あげく④あまる、餘裕がある⑤あます、のこす

餹 カン 餹 餹

①あん、團子の中に入れる雑味②國訓あん(小豆をすりつぶし砂糖を加へてねりしもの、又葛粉に酒醤油などを加へて造る調味料)

饗 キ 饗 饗

③ゑ、ゑば、飼料④くひもの、たべもの⑤くらはず(食)又かふ

館 タワン 館 館 館

①やかた、たて、はたごや②宿す、やかたにとまる③役所の建物④庭園内の建物、やすみどころ⑤學校のたてもの⑥みせ(店)

九 畫

餵

コ

餵 餵 餵

①かゆ(饗)②かゆを食ふ、貧しくゝらすこと③かゝりうどゝなる、人にたよりくらす

饗

テツ

饗

むさぼる、物をむさぼり食ふ

餽

コウ

餽

かたいひ、ほしいひ、乾食

餽

エイ アイ

餽

すえる、飯が腐る

餽

タウ

餽

あめ(餽)かたあめ

一〇畫

餽

キ

餽

①こめ、又米をおくる②なまの肉③いけにへ

餽

キ

餽

④おくる、食物を贈る⑤はこぶ(運)⑥まつる

餽

リウ

餽

⑦むす、飯をふかす、又ふける⑧ふかしたる飯

餽

エフ

餽

①かたいひ、農事の時田野にてたべるべんたうの類②かたいひをたべる、かたいひをおくる

餽

ウン

餽

餽は麵類の一

一一畫

饗

バン マン

饗 饗 饗

饗頭は小麦粉を蒸したる餅

饗

キン

饗 饗 饗

①うる、食料が不足する(穀物のみのらぬことを飢・饑といひ野菜類の凶作を饑といふ、又五穀中の一穀がみのらぬことを歉、二穀が升らぬことを飢、三穀がみのらぬことを饑といふ)②うる、食物の不足

一二畫

饗

キ

饗 饗 饗

食部 饗・饗・饗・饗・饗・饗

③おくる、やる、食物を贈りあてがふ④くひもの、おくりもの、かたいひ

饗

セン

饗

饗

饗

⑤そなへもの、膳立したる食物⑥そなへる、酒食を供す

饗

エイ

饗

すえる、飯がむれ腐る

饗

キ

饗

饗

饗

⑦五穀のみのらぬこと、又其年⑧うる、うる

饗

セウ

饗

饗

饗

⑨ゆたか(饗)おほし(多)地味がこえて居る⑩ゆたかにす、十分ならしめる⑪みのがす、ゆるす

一三一一四畫



饗

ヨウ

饗

饗

あさめし、あさげ、又朝食を調へる。肉類を料理す

饗

ダウ

饗

饗

むさぼる(食)轉じて惡歌又は惡人

饗

キヤウ

饗

ねざらふ、もてなす、御馳走する。もてなし、さかもりまつり、酒食を捧げて神をまつる。うく(享)神が供物をうける、御馳走になる

饗

セン

饗

かゆ(糜)厚粥。かゆをすゝる

饗

エン

饗

あく、飽足る、満足する

首部

首

シユ

首

くび、あたま、かうべ、しるし(首級)人を率ゐる者、首長、かしら。はじめ、さき(前)かみ(上)かなめ(要)肝なる所。詩歌文章を數へる語。罪を白状すること。したがふ、降服。むかふ(向)國訓おびと(古の姓の一)

二一八畫

首

キ

首

首

首

みち(遠)八達の道。首首は神の名

馥

クワク

馥

馥

くびきる、みよきる、戰場にて敵の耳、又首をきる。斬取りたる耳又は首。かほ(顔)おもて(面)

香部

香

キヨウ

香

香

香

かほり、にほひ、かかんばし、かうばし。にほふ、かをる、薫ず。にほひぶくろ、又たきもの等の料

九一一畫

馥

フク

馥

馥

馨

ケイ

馨

馨

馨

かんばし、かうばし、かをる、名聲があがる。かをりよきにほひ、名譽、ほまれ。語勢を強めるための助詞

馬部

馬

バ

馬

馬

馬

家畜の一、うま。投壺のかずとり。獨逸の貨幣の單位、馬克の略(我約四十八錢にあたる)。國調うま(遊興費を拂はぬものを取り立てる爲其客につきて宅に行かかけとり、大なるもの、形容)

二 畫

馭 ギョ  
馭 馭

馮 ヒョウ  
馮 馮 馮 馮

馱 タイ  
馱 馱 馱

三 畫

馱 タイ  
馱 馱 馱

①のせる、馬の背に荷をつける、轉じて一般に物を負はせること、又その物②他語に冠して劣りたる意をあらはす語③馬につけし荷を數へる語④はきもの、木履

馳 チ  
馳 馳 馳 馳

①はす、はしる、かける、又傳達す②心を其方面に向ける、つたはる(傳)物事が早く經過すること、物事を急激にする意

馴 ジュン  
馴 馴 馴

①なれる、鳥獸が人になれ親しむ、熟練する②ならず、次第にさうさせる

四 畫

駛 ケツ  
駛 駛 駛

①駛駛はよく走る良馬②はやし(快)すみやか

五 畫

馭 ケイ  
馭 馭

馱 ケイ  
馱 馱

馱 チユ  
馱 馱 馱 馱

馱 チユウ  
馱 馱 馱

馱 ク  
馱 馱 馱

①とどまる(止)車馬がたちどまる、物事が中途にて停止する、又一定の所にとどまる②とどむ、中途にとめる

①のろき馬、にぶき馬②才能にぶくおろかなること

①こま、年わかき馬、又二歳の馬、五尺以上六尺以下の小馬②國訓こま(馬の總稱、種々なる小形のもの)

駕 ガ  
駕 駕 駕 駕

①馬を車につけて走らせる支度をする②のる(乗)③のりもの④のりこす、しのぐ(乗)あぐ(駛)

駘 タイ  
駘 駘 駘 駘

①にぶし(鈍)にぶき馬、又にぶき者②ぬぐ(駘)馬のくつわがはづれる、くつわをぬがす③ひろくとしたる貌、又春の長閑なるさま④姿のみにくきさま

駛 シ  
駛 駛 駛

①はす(馳)疾走②とし(疾)はやし  
駝 ダ  
駝 駝 駝  
①駝駝は駝の一日せむし、くゞせ、尙健②駝鳥は野鳥の一

駟

シ

駟 駟 駟 駟

①四頭の馬(古代の馬車は四頭立にして外側の左右を駟又駟といひ中の左右を駟といふ) ②四頭立の疾き馬車

六 畫

駟

ヘイ

駟 駟 駟 駟

ならぶ、ならび、となり

駟

カイ

駟 駟 駟 駟

①おどろく(驚)又そのさま ②おどろかず、びつくりさせる

駟

イン

駟

浅黒き地に白毛の雜る毛色の馬

駟

ラク

駟 駟 駟 駟

①黒色のたてがみある白馬 ②駟駟は熱帯の沙地に産する家畜 ③絡に通じ用ふ

七 畫

駟

シン

駟 駟 駟 駟

①馬の走る貌 ②物事の進行のはやき貌

駟

シユン

駟 駟 駟 駟

①すぐれたる馬、良馬 ②すぐれる(俊)又其者 ③すみやか、はやし ④おほいなり(大) ⑤たかし(高)けはし(峻)きびしい(峻)

駟

テイ

駟

①はす(馳) ②のべる(展) ③すめる(進) ④やる

駟

セイ

駟 駟 駟 駟

①あかし、赤色の牲 ②赤黄色の馬 ③恥ぢて顔をあかくす ④弓のよくとゝのへること

八 畫

駟

スキ

駟 駟 駟 駟

①蒼白雜色の馬、あしげ ②楚の項羽の乗用したる名馬

駟

ライ

駟 駟 駟 駟

高さ七尺以上の馬

駟

キ

駟 駟 駟 駟

①のる(乗)またがり乗る ②馬に乗る兵士 ③のりうま、人の乗るやうに仕立てし馬

馬部 駟・駟・駟・駟・駟・駟・駟

駟

キ

駟 駟 駟 駟

①青黒色の馬 ②一日に千里を走るといふ良馬、駿馬

駟

ヒ

駟 駟 駟 駟

①駟馬の兩外側の馬、そへうま ②馬が走りて止らぬ貌

九 畫

駟

ブ

駟 駟 駟 駟

はす、馬が縦横に走す

駟

ヘン

駟 駟 駟 駟

かたる、たばかる、あざむきだます

一〇 畫

騫

ケン

騫 騫 騫

①かく(虧)②軽くとびあがるさま、又軽々しき貌③馬の腹のやまひ

騫

シツ  
チヨク

騫 騫

④きめる、さだむ(定)⑤のぼる

騫

リウ

騫

尾の黒き赤馬

騫

トウ

騫 騫 騫

⑥あがる、のぼる、又乗る、たかまる、物價があがる⑦のぼす、あげる、たかめる、たかくなる

騫

シウ  
スウ

騫

騫

サウ  
ソウ

騫 騫 騫

⑧車馬をつかさどる者、うまかひ、御者⑨供奉の人、ともまはり⑩はしる(趨)⑪や、よき箭⑫騎士、又乗馬⑬さわぐ、亂れ動く⑭さわがす、さわぎ、さわがし、又それ等のさま⑮うれ(愁)⑯詩の一體(楚の屈原の離騷賦に始まり後世屈原に同情して宋玉等の作りし悲憤慷慨の詩賦)⑰詩賦、又隠遁したる詩人⑱すゞし(涼)さびし(寂)

騫

ラ

騫 騫

騫馬の牡と馬の牝との混合種、らば

騫

バク

騫 騫 騫

①こえる、のりこえる、超越②いつさんに、まつしぐら、ひた走りに

騫

サン

騫

③そへうま、三頭立の馬車の副馬④身分卑しき者

騫

ク

騫 騫

⑤かる、馬に乗りてかけさせる、追ひ拂ふ、ひまを出す⑥かける、疾走する⑦軍隊の列

一二畫

騫

クワ

騫

騫は周穆王が天下を周遊する時乗用せし八駿馬の一

騫

ケウ  
ケウ

騫 騫 騫

たけし、つよし(強)いさまし(勇)

騫

ダ  
タン  
テイ

騫 騫

騫

ケウ

騫 騫 騫

速錢馬のまだらある馬、又駿の黒き白馬ともいふ①おごる、たかぶる、むばる②口先の短い獵犬③盛んなる貌

一三畫

騫

ゲン  
ケン

騫 騫

④しるし、あかし⑤きざし(兆候)⑥きよめ、效能⑦むくい(報)⑧ためす(試)ためし、こころみ

騫

ケイ  
キヤウ

騫 騫 騫

おどろく、おそれる(恐)おびえる、さわぐ、おどろかす、おどろき

騫

エキ

騫 騫 騫

①うまや、しゆくば②宿場にて交代してつき立てる舟車人馬、はゆま③人馬などのひきつゞく貌④苗の生ずる貌⑤汽車の發着する所、ステーション

一四一七畫

驟

シウ

ソウ

驥

驢

①はす(馳)疾く走る②すみやか、にはか、突然③しば(敷)たびく

驢

リョ

ロ

驠

驢

馬の一種、うさぎうま、るば

驥

キ

驥

驥

①一日に千里を走る程の名馬②才能すぐれたる者

一八一九畫

驥

シヤウ

ジャウ

驥

驥

あがる、あぐ、馬がはせる時首をあがること

驥

クワン

驥

驥

①馬の和樂するさま②よろこぶ(歡)

驥

レイ

驥

驥

(並)

①純黒色の馬、くろうま②くろし、くろ(黒)③ならぶ

骨部

骨

コツ

骨

骨

骨

①ほね、物事を組み立てて支持するもの②剛直にして容易に人に屈せぬ氣象③新羅の族制の稱④國調ほね(くみたての心となるもの、手敷、勞力)こつ(火葬の後に残る骨、はずみ、調子)

四一八畫

骸

トウ

骸

骸

骸

①さい、すごろくのさい②また(股)

骸

カイ

骸

骸

骸

①ほね(骨)②からだ、むくろ、かばね

骸

カク

骸

骸

骸

①骨、ほねぐみ②されほね、又牲の後の脛骨

骨部 骨・骸・骸・骼・髀・髁・髌・髌・髌

髀

ヒ

髀

髀

髀

も(股)また

一一一五畫

髀

ロウ

髀

髀

髀

髀と連用す、されかうべ

髀

トク

髀

髀

髀

髀はされかうべ

髀

ズキ

髀

髀

髀

①骨の心にある脂、又骨の中心②植物の莖幹中にある柔かなる部分③心のそこ、衷心④物事の中心、かなめ、大切な所

體

テイ  
タイ

體 體 體 體

①からだ、身體②てあし、四肢③かたち(形)ありさま  
④かた、格式⑤うらかた⑥五官に感ずる物、又物事の  
どだい⑦わかつ(分)⑧おこなふ(行)⑨まじはりいる  
(接納)⑩したしむ(親)⑪自分を其地位に置きて見きは  
める⑫根・莖・幹等の本部、又それらの物となること

高部

高

カウ  
コウ

高 高 高

①たかし、たつとし(尊)上品である、立派である、盛  
んになる、たけなは、すぐれる、いさぎよい(潔)物價  
がたかい、聲が遠く響きわたる②たかくす、たかしと  
す、たつとぶ③高き所、たかきこと④たかさ⑤國訓た  
か(物の數量)

髻部

三一四畫

髻

テイ  
セキ

髻 髻 髻

そへがみ、かもじ

髻

ハウ

髻 髻 髻

髻はよく似て居る、さもにたり、かすか、ほのか

髻

パウ

髻 髻 髻

①かみ(髪)たれがみ②毛の中にて殊に長き毛、轉じて  
③すぐる(後)又其人④たてがみ(鬘)

髻

タン

髻

髻の垂れたる貌

五畫

髻

テウ

髻 髻 髻

男女兒の結髪をして垂れたるもの、うなる、轉じて小  
兒の時代又は小兒

髻

シ

髻 髻 髻

ひげ、くちひげ、うはひげ

髻

ハツ

髻 髻 髻

①かみ、頭髮、けすぢ②地上の毛、草木

髻

セン

髻 髻 髻

ひげ、頬ひげ

髻

ハウ

髻 髻 髻

①ひげの多き貌②國訓たば(婦人の結髪の後方に張り  
出たる部、つと)

髻

フツ

髻 髻 髻

髻髻と連用す、髻を見よ

六一二畫

髻

ケイ

髻 髻 髻

①たぶさ、もとどり②瘧の神

髻

ソウ

髻 髻 髻

①髪の亂れるさま②あらし(荒)ゆるし(緩)

髻

マン

髻 髻 髻

①かもじ、かつら、かみかざり、假髪②くびかざり、瓔珞の類

二二一四畫

鬢

シユ

鬢

①ひげ、あごひげ、くちひげ②獸の口邊にある剛き毛

髻

クワン

髻

①わけ、かみ、婦人の結髪②山の翠色③女のめしつかひ

髻

ビン

髻

髻

耳際の髪毛、びん、びんづら

鬮部

五一一〇畫

鬮

ダウ

鬮

かまびすし、さわがし(騒)又そのこと、みだる(擾)

鬮

コウ

鬮

①たゝかふ(鬮)②とき、ときのこと(鯨波)

鬮

トウ

鬮

鬮は①たゝかひ、けんくわ、あらそひ、いくさ、又た たかふ②たゝかはす、優劣巧拙などをせりあふ、競争 鬮に通じ用ふ

鬮部

鬮

チャウ

鬮

①香草の名②香草と黒黍とを原料としてつくりし酒、先祖のまつりに用ゐる③ゆぶくろ(弓衣)④のぶ(暢)

一九畫

鬮

ウツ

鬮

鬮

①しげる(茂)物事の盛んなるさま②香草の一、うこん ③むす、むすぼれる、とどこぼる④果樹の一、にはう め赤いきどぼる、うらむ⑤ふさぐ、ふさがる⑥むす(蒸) ⑦くらし、かすか(幽)

鬮部

鬮

レキ

鬮

鬮部

鬮部

鬮部

七八三

①かなへ(鼎)②かめ(瓦瓶)③へだつ(隔)④鬮訓むない た(鏝の陶板)

一〇一二畫

鬮

ジン

鬮

①かま、大釜②こしき(甑)

鬮

シユク

鬮

①かゆ(粥)又粥を食ふ②ひさぐ、物を賣る③やしなふ (養)やしなひ

鬮部

鬮

キ

鬮

鬮

鬮

①陰の靈、おに②かみ、まつりたるたましひ③ばけもの、陰氣、ものゝけ④人を害する悪神、又地獄にゐて亡者を取扱ふ想像上の怪物⑤國訓おに(勇猛なる者、残忍非道なる者、いかめしく大きな物の形容)きねら(漢字畫上の語)

四畫

魁

クワイ

魁 魁 魁

①をさ、かしら、首領②さきがけ、最初③おほいなり(大)④北斗星の第一星⑤をか(小阜)⑥やすし(安)

魂

コン

魂 魂

たましひ、陽の氣、精神、こゝろもち

魃

魂に同じ

魃 魃

五畫

魃

ハツ

魃 魃

①ひてりのかみ、旱神②ひてり(旱)

魄

ハク

魄 魄

①たましひ、陰の精氣、こゝろもち②月の輪郭の光のなき部分、又月の光③かす(粕)④物の聲の形容⑤ひろし(薄)⑥おちぶれる(零落)

魃

ミ

魃 魃 魃

①ものゝけ、ばけもの、へんげ②ばかす、みいる

八畫

魃

パウ

魃 魃

魃は山水木石のばけもの、すだま

魃

リヤウ

魃 魃

魃を見よ

魏

グワイ

魏 魏

①たかし(高)②國の名(戦國時代の一國、今の河南省北部山西省の西南地方に據り後秦に滅ぼされたもの)③朝の名(曹孫の子曹丕が東漢に代りて建てたもの、又東晉のとき拓跋珪の建てたるものにて後世東西に二分し東魏は北齊に西魏は北周に滅ぼされしもの)④おほいなり(大)

一一一四畫

魃

チ

魃 魃

ばけもの、みづち

魃

マバ

魃 魃

①人を害し人心をまどはすもの、まもの、をに、惡鬼②外道の術、不可思議の法③佛語にて修道を妨げ善事を害する惡神

魚部

魚

ギョ

魚 魚 魚



①うを、さかな、魚の皮曰われ(吾)②魚の形せる官吏のおびもの

二一四畫

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮎 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

五畫

鮎 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮎 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮎 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

六畫

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮎 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

鮑 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

七畫

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮎 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

鮠 魚の形せる官吏のおびもの

八 畫

鰻

鰻 鰻

の名、ぼら、ぼらの幼時の稱、いな

鯖

鯖 鯖

魚の一、さば、青花魚、料理の一、よせなべ

鯛

鯛 鯛

海魚の一、たひ、棘鱗魚

鮓

鮓 鮓

魚の一、魚の子、國訓にしん(海魚の一、かど、鱧)

鮓

鮓

想像上の大魚、はら、こ

鯨

鯨 鯨

ケイ キヤウ

海獣の一、くぢら、國訓くぢら(尺度の一にて曲尺の一尺二寸五分に當る)

鮪

鮪 鮪

國字

しやちほこ、想像上の海獣、魚虎(伊勢海にありといふ)

鮪

鮪

國字

なまづ、淡水魚の一、

九 畫

鱈

鱈 鱈

海魚の一、國訓さはら(海魚の一、馬鮫魚)

鱧

鱧 鱧

海魚の一、かれひ、比目魚の屬、板魚

鱧

鱧 鱧

淡水魚の一、どぢやう

鱧

鱧 鱧

鱧に同じ、國訓いなだ(ぶりの幼時の稱)めじか(溪流の水底に棲む小魚、ごり、杜父魚)

鰓

鰓 鰓

魚類の呼吸器、あぎと、えら、おそれる貌

一〇 畫

鰓

鰓 鰓

魚に同じ、國訓ぶり(いなだの成長したるもの)

鰓

鰓 鰓

クワン

夜眠らぬといふ大魚の名、妻なき男、やもを、やもめ(やむ(病))

鰓

鰓 鰓

魚類の背・胸・腹部に附著せる翼状のもの、ひれ

鰓

鰓 鰓

いわし(鰓)さはらに似たる小魚

一一 畫

鯉

ケン

鯉 鯉

①海水魚の一 ②國訓かつを(かつを節となるもの、松魚)

鰻

ベン  
マン

鰻 鰻

淡水魚の一、うなぎ

鱈

セツ

鱈

海魚の一、たら、大口魚

鱒

國字

鱒 鱒

鮫鱈は海魚の一

一一一六畫

鱒

ソン  
テン

鱒 鱒

海産魚の一、ます

鱗

リン

鱗 鱗

①魚類等の體を被ふ片細のもの、うるこ、うるづく ②うるこを有する動物の總稱

鱈

クワイ

鱈

①なます、細くきつた肉 ②なますにす

鱈

シヤウ

鱈 鱈

①海魚の一、鯊 ②國訓ふか(暖帯海洋に棲む大魚の名)

鱈

・

鱈 鱈

すゞき

鳥部

鳥

テウ

鳥 鳥

とり、兩翼二脚ある動物にして殊に尾の長きもの

一一二畫

鳥

イツ

鳥

候鳥の一、つばめ(燕)つばくらめ

鳥

フ

鳥 鳥

①水鳥の一、かも ②國訓けり(鳥の一、野鴨、過去終止の意を示す助動詞の「けり」に用ふ、きまり、決著)

鳥部 鳥・鳥・鳥・鳥・鳥・鳥

鳥

キウ  
ク

鳥 鳥

①鳥の一、はと ②あつまる(糾)あつむ

三畫

鳳

ホウ

鳳 鳳

ほうわう、聖人にして天子の位にある時之に應じて現はれるといふ瑞鳥

鳴

ベイ  
メイ

鳴 鳴

①なく、なる、ひびく(響)ものをいふ、名聲があがる ②なき、なり、又ならず ③鳥が互ひによぶこと

七九一

鶯

エン

鶯 鶯 鶯 鶯

①猛禽の一、とび②とびの羽の如き色、とびいろ③たこ、いかのぼり

四 畫

鴉

ナン

鴉 鴉

①毒鳥の一、醜②鴉の羽をひたしたる酒を飲ませて人を殺す、毒殺

鴉

ハウ

鴉 鴉

雁

雁に

雁 雁

同 雁に

鴉

ア

鴉 鴉

①鳥の一種、からす、みやまがらす②鳥の如く黒き色、漆黒

五 畫

鴉

レイ

鴉 鴉

鴉は小鳥の一

鴉

エン

鴉 鴉

①水鳥の一、をし、をしどり(雄を鴉といひ雌を鴉といふ)②をしどりの雌雄が常に相むつみて離れぬより夫婦の和睦するにいふ

鴉

シ

鴉

①ふくろ(鼻)ふくろふ、悪鳥なるより悪人に喩ふ②かめ(瓶)さけがめ

鴉

コ

鴉 鴉

鴉は鳥の一

鴉

ヤウ

鴉

水禽の一、をしどり(鴉)

鴉

アフ

鴉 鴉

①家禽の一、あひる(鴉)家鴨②かも(鴉)

鴉

コウ

鴉

しぎ、小鳥の一(鴉)

六 畫

鴉

コウ

鴉 鴉

鴉

ケン

鴉 鴉

社鴉と連用す①鳥の一、ほととぎす、時鳥、子規、郭公、不如歸、蜀魂②鷓鴣の一種、さつき、やまつまじ、杜鵑花

七 畫

鴉

カフ

鴉

鴉の屬、はと

鴉

シ

鴉 鴉

①水鳥の一、おぼとり、はくてう②おぼいなり(洪)

鴉

ヨク

鴉 鴉

鴉はほととぎす

鶇

テイ

鶇 鶇 鶇

①水鳥の一、がらんでう(伽藍鳥)ペリカン ②國訓う(水禽の一、うのとりに、鶇)

鶇

ガ

鶇 鶇

鳥の一、がてう、家雁

鶇

コク

鶇 鶇 鶇 鶇

①はくてう(白鳥)天鷲 ②弓的の中心の黒星

鶇

ム

鶇 鶇 鶇 鶇

鶇は鳥の一

八 畫

鶇

ホウ

鶇 鶇

想像上の大鳥、おほとり

鶇

ヒツ

鶇 鶇 鶇

小鳥の一、ひよどり、ひえどり

鶇

テウ

鶇

猛鳥の一、わし(鶇)

鶇

シヤク

鶇 鶇 鶇

①鳥に似たる鳥、かさゝぎ、朝鮮がらす ②人名(古の名醫)

鶇

ヤ

鶇

①雌に似たる鳥 ②國訓ぬえ(想像上の怪鳥)

鶇

コウ

鶇 鶇

家禽の一、あひる、家鴨

一〇 畫

鶇

サウ

鶇

①鶇の一種、まなづる ②鶇は小鳥の一、かうらいうぐひす ③聲の和らぐ形容 ④金屬のびかゝする形容

鶇

アウ

鶇 鶇

①小鳥の一、かうらい鶇 ②鳥の羽の美麗なる貌 ③國訓うぐひす(はるつけ鳥、はなみ鳥)

鶇

カク

鶇 鶇 鶇

①渉水鳥の一、つる、たづ、丹頂 ②羽毛の白き貌 ③白色の形容

①一種の怪鳥、②國訓ぬえ(一種の怪物にして首は猿、體は虎、尾は蛇に似るといふ)

鶇

シユン

鶇 鶇 鶇

①野鳥の一、うづら ②鶇の尾の如く衣服の尻がきれて見苦しきこと ③わし(鶇) ④國訓うづら(東京にて芝居の下機敷の稱、櫻欄の毛と加賀芋とを合せ編ひし船舶用の綱)

鶇

カウ

鶇

鶇は小鳥の一、かうらい鶇

九 畫

鶇

カツ

鶇

野鳥の一にして雉に似る、やまどり

鶇

ボク

鶇 鶇

鶇

コツ

鶇

①鳩の屬、あさなきどり②猛禽の一、たか、はやぶさの類③回鶇は北方のえびすの名

鶇

シ

鶇

鶇

鶇は水禽の一、う(鶇)

鶇

ケイ

鶇

鶇

鶇

にわとり、やこゑのとりにわとり、やこゑのとりに

鶇

コウ

鶇

鳥の子、ひな、ひよこ

一一畫

鶇

シヤ

鶇

鶇

鶇は鳩の一種

鶇

オウ

鶇

鶇

水禽の一、かもめ、信鳥

鶇

シ

鶇

鶇

①うつ(鶇)猛禽が小鳥をうち殺すこと②猛禽、肉食鳥の總名③つよし(強)たけし、はげし

鶇

サク

鶇

鶇

鶇は一種の神鳥

一二畫

鶇

セウ

鶇

鶇

ヨウ

鶇

鶇

鶇

猛禽の一、たか

鶇

ロ

鶇

鶇

鶇

渉水鳥の一、さぎ、雪客

鶇

セン

鶇

鶇

猛禽の一、鷹鷹の類

鶇

アウ

鶇

鶇

鶇

鶇

アウ

鶇

鶇

鶇

うぐひす(鶇)又くびに美しき模様のある一種の鳥ともいふ

鶇

アウ

鶇

鶇

鶇

鶇

イツ

鶇

鶇

渉水鳥の一、しぎ(鶇)④かはせみ(翡翠)

鶇

前の俗字

鶇

鶇

鶇

カシ

鶇

鶇

雉の一種、しろきじ

鶇

シウ

鶇

鶇

猛禽の一、わし(鶇)

鶇

レウ

鶇

鶇

鶇は小鳥の一、みそさとい

鶇は小鳥の一、さどき、みそさとい(鶇)

一三畫

鷓鴣はよく人語をまねる鳥の一種、鷓鴣は貝の一種、あうむがひ

一八一—一九畫

鶴

クワン

鶴

鶴の一種、こぶづる、こぶのと

鷓

レイ

鷓

鷓

鷓

黄鷓は小鳥の一種、てうせん鷓

鸚

ラン

鸚

鸚

鳳凰の一種、又は鳳の青色の多いものともいふ、君主の馬車、馬の轡に附ける鈴

鹵部

鹵

ロ

鹵

鹵

鹽氣ある土地、しほつち、天然に産するしほ(人造のものは鹽)、地に草木なきこと、あれち、不毛の地、耕作できぬ地、たて、弓矢を防ぐ大楯、かすむ(掠奪)

九一—三畫

鹹

カン

鹹

鹹

しほけ、鹽味、しほからし、しほけがある、又にがし(苦)

鹵

ゲン

鹵

鹵

鹵

鹽

エン

鹽

鹽

鹽

地質内にある鹽味、灰に水をまぜて濾したる液汁、あく

しほ(鹵鹽と並稱する時は、鹵は天然産のもの、鹽は人造のもの)、しほかげん、元素の一、又酸類と金屬と結合して成る物質、しほづけにす

鹿部

鹿

ロク

鹿

鹿

森林に棲息する草食獸、か、しか、方形の米、多人數競争して互ひに之を得んとする目的物、訓し、しか、猪等の野獸の總稱

二—五畫

麋

ビ

麋

鹿の一種、とない、ほとり(淵)、まゆ(眉)

八—畫

麋

ゲイ

麋

麋

鹿の子、かの子、し(貌)

麋

キ

麋

麒麟は想像上の靈獸、又熱帯地に産し鹿に似て角なき一種の獸

麋

ロク

麋

麋

ふもと、山脚、山のある森林、山林を守る役人、やまもり

麋 キン

麋の類の總稱

麋

麋 レイ ライ

麋

麋

①うらまか、うるはし、うつくし、立派である、はなやか、あざやか(鮮)いさぎよし(潔)②つく(附)かよる(懸)ふる(觸)③ならぶ(儼)對になる④むなぎ(か)ず(數)⑤高麗は國の名(昔の高句麗にして今の朝鮮)

一〇一三畫

麋 ベイ

麋

麋 シヤ セキ

麋

①しかの子、かの子(麋)②一般に獸の子

麋 リン

麋

麋

鹿に似たる獸、じや、腹部の脂肪より麝香を製す

きりん(麒麟)

麋 ソ

麋

①あらし(粗)念入りでない、又亂暴の意②くるごめ、玄米③ほど、大略

麋部

麥

バク

麥

①穀物の一、むぎ②國訓ばくねう(漢字畫上の語)

四一九畫

麩 フ

麩

①ふすま、むぎかす②ふすまに小麦粉を混じ水にさらしたる食品、ふ、又ふすまを洗粉とする時の稱

麩 ハウ

麩

①だんご(餌)②麩麩はパン

麩 キク

麩

①からぢ、麥又は米を蒸し暖室にて發酵せしめしもの②さけ(酒)③藥種の名④麩麩は草花の名

麩 ベン

麩

①だんご②麩麩はパン

麩部

麩 マバ

麩

①草の一、あさ、を、皮の纖維より絲を製し布を織る②みことのり、繪旨、唐代に敎書を麻をすき入れし紙に記したるよりいふ③五穀の一、ごま④しびれ(癩)しびる

三一七畫

麩

バ

麩

①ちひさし、ほそし、細小②俗語の助詞にして疑問の語、いかん(怎麼)なに(什麼)

麩

キ

麩

①はた(旗)采配②さしづす、さしまねく、よぶ③しめす(示)



磨

國字  
①まる、おれ、われ②そなた、おんみ、おまへ、又人名に用ふ

磨 磨

學

クワウ  
學會、學校  
學 學

黄部

黄

クワウ  
ワウ  
①五色の一、き、きいろ②きばむ、黄色を帯ぶ③老人、其の毛が初めは白くなり更にきばんで来るよりいふ④小兒其の皮膚の色がきばんで来るよりいふ⑤黄色の毛の馬⑥大黃・硫黄・雌黄・黄金など黄色をおびしもの、總稱⑦支那上古の天子黄帝軒轅氏、又はその一族の稱

黄 黄

一三畫

黍部

黍

シヨ  
①五穀の一、きび(黍稷と並べいふ時は黍はもちきび、稷はうるちきび)②目方の單位(一銖の百分の一)

黍 黍

三一〇畫

黎

レイ  
①くろし(黒)②おほし(多)もろく(衆)③ころ、ころほひ

黎 黎

黏

デン  
ネン  
①つく、ねばる、ねばりつく、ねばし②ねばり、又ねばり氣あるもの

黏 黏

粘

チ  
①もち、とりもち

粘 粘

黒部

黒

コク  
①五色の一、くろ、くろし、くろくす、又暗くす②くらし(暗)③くろむ、くろす④國訓くろし(わるい)

黒 黒

四畫

黔

ケン  
キン  
①くろし(黒)黒くなる、くろむ②地名(貴州省の別稱)

黔 黔

黠

ボク  
モク  
①もだす、だまる、又そのこと②しづか(靜)又其さま、又虚無③不滿なるさま

黠 黠

五畫

黛

タイ  
①まゆすみ、又それにて畫きし眉②山色をあをく(とせるさま)

黛 黛

黹

チュツ  
しりぞく、とりさる、おひのける、おとす、やめる、又しりぞけられる

黹 黹

黠 イウ 黠 黠

あをぐろし、又そのさま

黠 テン 黠 黠 黠

①ほし、ちよぼ、しるし、ぼちをうつらぼちをつけた如く見える物②文章のくぎりのしるし、又それをする③文章の構成上筆を一所に落したるあと④評價すること⑤あな、きず、非難、缺點、又よこれ、けがれ⑥物を調べ敷へること⑦時計の時をかぞへる語⑧しづく、したより⑨部分、箇所⑩うなづく、がてんす⑪とぼす、つける⑫いれる、さす⑬筆にて字をけす、従来のもので作りかへる⑭位置のみにて大小・長短・厚薄のなきもの

六一八畫

黠 カツ 黠 黠

①わるがしこし、又其者②こざかし、さかし

黨 タウ 黨 黨 黨

①周代の行政区劃上五百家の稱②轉じて自分の郷里③みうち、親戚④くみ、なかま⑤おもねる、阿附⑥互に悪事を隠して助け合ふこと⑦たぐひ、類例⑧かたよる、不公平⑨ところ(所)⑩もし(儻)⑪たゞし(正)

九一五畫

黠 バイ 黠 黠

①有機物に寄生する下等植物、バクテリア、黴菌②かび、毛茸、かびる③花柳病の一、かさ④顔がすくけよごれる、又其よごれ⑤物が雨にさらされて黒くなる⑥筆を下す、字畫をかく

黠 エン アン 黠 黠

①ほくろ、黒子②くろあざ、黒痕

黠部

黠 チ 黠 黠 黠

ぬひもの、ぬひ、刺繡

五一七畫

黠 フツ 黠 黠 黠

①古代の禮服の名、又其ぬひもやう②まへだれ、ひざかけ、まへかけ

黠 フ ホ 黠 黠 黠

古代の禮服の名、又其ぬひもやう

黠部

黠 バウ ベン 黠 黠 黠

①蛙の屬、あをがへる②はげむ、つとむ(黠)③縣の名(今の澠池縣)

四一二畫

黠 ゲン グワン 黠 黠

①鼈の類、おぼすつぼん②とかげ、蜥蜴

黠 テウ 黠 黠

ハの姓(漢の景帝時代の人)②あさ(朝)

繩部 アワ 繩

①かへる(蛙)②みだらなる音楽の聲

鼈部 ガウ 鼈 鼈 鼈

海産の大すつぽん

鼈部 ヘツ ベツ 鼈

淡水に産する龜の一、すつぽん

鼎部

鼎部 テイ チヤウ 丹 鼎 鼎

①金屬にて作りし一種の鍋、かなへ②帝王が天下を統

鼓部

鼓部 コ 鼓 鼓 鼓

①樂器の一、つゞみ②つゞみをうつ、又うつ(擊)たゞきて鳴らす③ひく、彈ず④はげます、ふるひおこす

五—八畫

鼗部 トウ 鼗 鼗

太鼓の音、つゞみの音の形容

鼗部 ヘイ 鼗 鼗 鼗

せめつゞみ、騎兵が馬上にて鳴らすつゞみ

鼠部

鼠部 ショ ソ 鼠 鼠 鼠

①小獸の名、ねずみ②害をなす者の喩③うれふ(憂)心配する④國訓ねずみ(うすゞみいろ)

五—一〇畫

鼯部 イウ 鼯 鼯

小獸の一、いたち

鼯部 コ 鼯 鼯

一種の小獸、むさぶび

鼯部 ケイ 鼯 鼯 鼯

鼠の一種、はつかねずみ、鼯鼠

鼻部

鼻部 ビヒ 鼻 鼻

①呼吸及嗅覺を司る器官、はな②つまみ、器物のしきりどころ③はじめ(始)

三—五畫

軒

カン

軒

いびき、ねいきははいき

駒

コウ コ

駒

駒

はいき、鼻息

齊部

齊

セイ サイ

齊

ひとし、おなじい口ひとしくす、同じくす、そろへる(とふ(整)をさまる(治)處理する(と)ともに、ひとしく、おしなべて(おつゝしむ(敬)なか(中)さ

し、はやし(ほぞ(脰)へそのぼる(國名(周代の諸侯にして後秦に滅ぼされたもの、今の山東省地方)朝名(南朝に於て蕭道成の建てもの、又北朝に於て高洋の建てたもの)料理の加減(もすそのいみ(齋)

三一九畫

齋

サイ セイ

齋

齋

ものいみ、祖佛を祭る時などに若干日間飲食行状を慎み心身を清める行爲、又それをなすこと(へや、勝手の間)法會の時の食事、とき、又食事(喪服の名(國訓いつく(けがれを去つて神に仕へる、かしこみ奉る)

齋

セイ

齋

齋

持ち來る、もたらす、おくる(贈)美そなふ(備)もたらしたる物(歎息の語、あゝ

齋

セイ

齋

齋

なます、あへもの(あへる、あへもの)にす

齒部

齒

シ

齒

齒

齒

は、口中に並び生ぜる消化器の一口すべて齒の形したるもの(と)し、よはひ(齡)ならぶ(並)比肩す、よはひす、まじはる、又馬の年齢を數へること

二一四畫

齒

シン

齒

齒

齒のぬけかはること、又その年頃

齋

ギン

齋

はじめ、はぐき(齧)争ひ論ずる貌

五畫

齧

シヨ サ

齧

齧

齧

齧は齒の揃はぬこと、物事がくひちがふこと

齧

テウ

齧

始めて抜けかはる齒、乳齒、又齒のぬけかはること

齧

レイ

齧

齧

齧

とし、よはひ(齒)

六一九畫

齧

ケツ

齧

齧

①かじる、かむ、くひつく、くひきる、かみやぶる  
②むしばむ、蟲がくふ  
③はがみ、齒をくひしはる、又くひこむ  
④くふ、くらふ

齧

サク

齧

齧

齧と連用す(齧字を見よ)

齧

ギョ

齧

齧

齧

齧

ク

齧

齧

むしば、くされば、かけば

齧

アク

齧

齧

①齧と連用す、齒のこまきこと、轉じて心がせま  
い、こせつく  
②小さき事柄

龍部

龍

リヨウ

龍

龍

①想像上の神靈なる動物、たつ  
②天子に關する物事に用ゐる語  
③星の名  
④高さ八尺以上ある馬  
⑤いつくしみ(龍愛)  
⑥豪傑に喩へる語  
⑦小高いうね  
⑧まだら(斑)

三一六畫

龐

ハウ

龐

①みだる(亂)  
②人の姓(戰國時代魏の家)  
③肥えたる貌

龍

キヤウ

龍

龍

①そなふ(供)  
②つむしむ(敬)うや／＼(恭)

合龍

カン

龍

龍

①寺の塔、塔下の室  
②づし、神佛安置の小箱、又佛壇

龜部

龜

キン

龜

龜

龜

龠

和の古字

龠

命部

龠

ヤク

龠

龠

①樂器の一、ふえ(簫)三孔ある竹笛  
②ますめの稱、一勻(一合の十分一)

五畫

①爬蟲類の一、かめ  
②うらなひ(占)うらなふ  
③せぼね、脊骨  
④ひび(蟬)

昭和十四年四月十五日印刷  
昭和十四年四月二十日發行

【模範草書大辭典】  
定價 貳圓八拾錢

著者 東洋漢籍研究會

發行兼印刷者 大谷德之助  
東京市神田區神保町一ノ三〇

印刷所 大洋社印刷部  
東京市神田區神保町一ノ三〇

發行所 大洋社出版部  
東京市神田區神保町一ノ三〇  
振替東京五九〇二番

— 製 複 許 不 —

★本社發行圖書總目錄ハガキでお申込次第無代進呈!

部本製社洋大・本製

大 洋 社 版 · 最 新 刊 名 著

尾山萬次郎著	法律問答詳解	四六判三九〇頁 特價五拾錢
有效な證書	書方と訴證手續	四六判三九〇頁 特價五拾錢
白神博淵著	六法ニ ヨル 諸願届書式大成	四六判三〇〇頁 特價五拾錢
庄野信治著	戰時 下の 式辭挨拶手紙教本	菊判函入上製 特價五拾錢
辯論研究会	現代祝賀弔祭演說辭典	三六判金字特製 特價五拾錢
入澤昕江著	和漢書道講話	四六判三七〇頁 特價五拾錢
前田默鳳著	眞行草字鑑	菊半截函入特製 特價五拾錢
島津嘉孝著	國家總動員法釋義	四六判三〇〇頁 特價五拾錢
同	新商法釋義	四六判函入特製 特價五拾錢
同	新會社法釋義	四六判二五〇頁 特價五拾錢

389  
11



終